学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら THE TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
4 月 28 日号

児童会：新しいリーダーによる新しいスローガンを楽しみにしています

共に歩んで参りましょう

校長　鈴木　稔朗

過日の授業参観日はたくさんのご参集をいただき、本当にありがとうございました。頂きましたご意見やご感想はきちんと検討し、対応して参ります。当日放送でお話ししましたことを以下に再掲し、今号とさせて頂きます。今後ともよろしくお願いいたします。

＊＊

令和4年度、本校は、心の宝物に満ちた学校をめざします。春のような温かさが常にあり、子どもたちも保護者の皆様も、職員も、学校に関わる全ての人が笑顔で安心して過ごせる学校を実現します。

子どもたちの心に、自分のよさへの小さくとも確かな自信が根付くよう、一人一人の今のありのままを愛おしみ、そこからスタートし、頑張りやよさをほめて育てる教育を今年も変わらず推進します。どの子もがかけがえのない大切な存在であることを伝えるために、命の記念日としての誕生日も大切にします。職員は常に子どもたちと共にいます。よさや、けがやトラブル、お誕生日のお祝いを、今年も丁寧にお伝えしていきます。保護者の皆様の、喜びも、不安も、ご心配もいつでもお寄せください。思いを一つに、共に歩んで参りましょう。

今日ご覧いただいた授業のように、これからの懇談できっと伝わるように、子どものことを第一に考え、決して骨身を惜しまない素晴らしい職員は私の誇りです。力を合わせ、子どもたちの笑顔と成長を全員で支えていきます。

三年目の今年は、子どもたちに付けたい力として、同時に、よさや頑張りをほめるポイントとして「自立力」と「共生力」の育成に重点を置きます。自立力を、面倒でも値打ちあることから逃げないで挑戦する力と捉えます。子どもたちとは「いいことは面倒でも頑張るよ」という言葉で共有します。「共生力」を、自分と他の人の個性や感じ方の違いを理解し、受け止め、何とか折り合おうとする優しさと捉えます。子どもたちとは「みんなちがうよ　でもわかりあうよ」という言葉で共有します。

新年度のスタートから、子どもたちは素敵な姿を見せてくれています。朝の明るい挨拶が力強くなりました。多くの子が、自分からすると決めて取り組んでいます。6年生は、委員長を中心に、ボランティアで挨拶運動をしてくれています。委員長は一人で給食を、掃除を見て回り、放送で全校によさやがんばるところを語りかけています。全員の新しい決意ややる

気が、掃除や、静かな給食の一人一人の姿から伝わります。面倒でも、値打ちあることから逃げない自立力が育っています。

日本語が十分分からない仲間と何とかつながろう、何とか支えようとしています。つくし学級の仲間の個性を受け止め、笑顔で見守ったり、よい距離感で遊んだりできる子が増えてきました。共生力が育っています。このことについて、少し踏み込んでお話しします。

私たちには、誰にも、大なり小なり特徴があります。運動や勉強の得意、不得意、話し方や人とのつながり方の器用さや不器用さ、性格の違いや発達の凸凹。「みんなちがうよ」とはそういうことです。しかし後段の「でもわかりあうよ」。これは、この強さと優しさは、そう簡単に育てられる力ではありません。それは、その出方が子どもたちの理解を超え、時に簡単には受け入れがたい姿や言葉として表れることがあるからです。

例えば、友だち 4 人で一緒にポテトチップスを食べるとき、自分のペースで食べ進んでしまう子がいます。無論悪気などなく、みんなといることを心から楽しんでいます。適切な分量を目で計ることが不得意なだけです。ある子は、自分が面白いことはきっと仲間も面白いと信じ、自分の興味だけをずっと話し続けます。またある子は一生懸命場を盛り上げようと、選んだ言葉や話題が、微妙にずれていたり、ややマニアックで自慢しているように聞こえたり、同じ場にいる誰かにとって心に痛い話題だったりします。
こういう状況になったとき、またそれが続くとき、子どもたちがトラブルなくその先に進むことは決して簡単ではありません。

「そんなときあなたはどうしますか」を問い続ける 1 年にします。

「ひたすら我慢する」それではお互いが笑顔にはなれません。ストレスがたまっていつか爆発します。

「強い言葉や力でやめさせる。からかう。みんなで無視する。関わらないようにする」これは関係の断絶であり、相手を傷つけるトラブルであり、いじめの始まりです。

難しいです。難しいけれど、子どもたちがこれからの人生で、きっと数多く直面する「考え方や行動が合わないと感じる人」と、どうすれば折り合えるか。お互いが傷つけ合わず、ほどよい関係を築き合えるかを学ぶ又とないチャンスです。コロナを機会に学んだ「排除でなく共感」を、生き方として身につけてほしいと心から願います。

「みんなと同じペースは、苦手なんだな」「きっと、盛り上げようとしてくれているんだな」
誰かの個性に対する違和感を、そんな風に受け止められる子を育てませんか。

「ゆっくり食べようよ」「4等分しようか」「私の話も聞いてくれる？」「話題を変えない？」「その話は、しない方がいいよ」「今の言い方はちょっといやだったよ」
合わないと感じる誰かにも、そんな風に、思いを率直に、しかし優しく伝え、良い関係を創ることをあきらめない子を育てませんか。そうして、

「ありがとう、つらいこともあったけど、みんなのおかげで、笑顔でいられたよ」
「こちらこそありがとう。あのときはごめんね。君がいてくれたおかげで、優しくなることができたよ」
子どもたちがこんな気持ちで巣立っていける学校をつくりませんか。

かけがえのない子どもたち一人一人が、将来の幸せにつながる今を生きられますように。そんな学校を、どうか一緒に作ってください。よろしくお願いします。

最後に、お誕生日の子どもたちに送っているメッセージをお伝えし、結びとします。

お誕生日おめでとう。あなたは大事な大事な宝物です。生まれてきてくれてありがとう。ありのままのあなたが、大事で、大好きです。どうかあなたがあなた自身と、あなたの大切な人を幸せにする力を付けられるよう、みんなで一緒に、経験や勉強をしていきましょう。おめでとう。